

第3章 これから目指す雨水対策の方向性

3-1 理念

あめの恵みを活かす安城

あめの恵みを活かす安城。この理念は、安城市雨水マスタープランを策定した当時、環境首都を目指す安城市として、あめを速やかに“流す”治水対策だけでなく、あめを水資源として捉え、雨水を“浸透させる”ことで地下水の涵養や河川流量の維持（湧水対策）に活かす、雨水を“貯める”ことで貯めた雨水を散水や防災用水として“使う”ことを推進するために掲げられたものです。

あれから10年の月日が流れ、近年では相次ぐ豪雨災害の発生により、治水対策や防災・減災対策の重要性がクローズアップされていますが、湧水対策や雨水利用の促進も必要な施策であることに変わりはありません。これからも環境先進都市として発展し続ける安城市としては、「第2次安城市雨水マスタープラン」においても、この理念を継承していきます。

3-2 基本方針

市民、事業者及び行政が協働して、
あまみずを水資源として捉え、
さらに防災・減災の視点を取り入れた雨水対策を推進する。

「施設の能力には限界があり、施設では防ぎきれない大洪水は必ず発生するもの」へと意識を変革し、社会全体で洪水に備える“水防災意識社会再構築ビジョン”の実現に向けて、今後は“防災”だけでなく、“減災”の視点も取り入れていく必要があるため、第2次安城市雨水マスタープランでは、市民、事業者及び行政が協働して、「水資源」と「防災・減災」の視点を取り入れた雨水対策を推進していきます。なお、雨水対策の категорияとして、雨水を「流す」、「貯める」、「浸透させる」、「使う」、水害について「学び備える」方針は継承していきます。

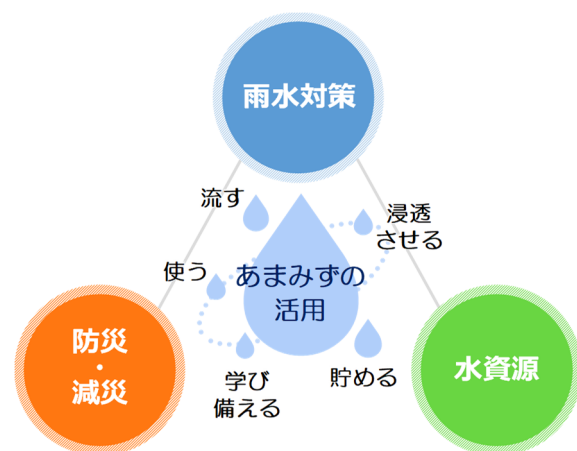


図 基本方針のイメージ